

「第 27 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 8 年 1 月 30 日（金）14:00～16:00

本庁舎 6 階 第 2 委員会室

1 出席者

1	岡 浩一郎（学識経験者）	12	鈴木 史博（生涯学習スポーツ課長）
2	神田 隆弘（区スポーツ協会）	13	勝山 雄太（新宿未来創造財団等担当課長）
3	奈良 和子（区スポーツ推進委員協議会）	14	渡辺 隆介（障害者福祉課長）
4	金子 和子（区レクリエーション協会）	15	広瀬 岳平（地域包括ケア推進課長）
5	村上 光一（区高齢者クラブ連合会）	16	鈴木 明彦（子ども家庭課長）
6	藤原 千里（区障害者団体連絡協議会）	17	袴田 雅夫（健康政策課長）
7	平田 知子（区中学校 PTA 協議会）	18	中村 信治（みどり公園課公園管理係）
8	池田 孝二郎（区小学校 PTA 連合会）	19	徳永 創（教育調整課長）
9	井元 毅（公募委員）	20	菊地 ゆみ（教育支援課長）
10	西村 貴司（公募委員）		
11	新谷 太郎（スポーツ関連事業者）		

欠席者 5名

橋本 純（区スポーツ推進委員協議会）※代理出席あり

田中 稔（区町会連合会）

桜井 久美子（区青少年育成委員会）

加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）

女川 洋一（みどり公園課長）※代理出席あり

机上配付資料

資料 1 スポーツ環境会議委員名簿

資料 2 前回会議（第 26 回）の振り返りと今回の検討テーマ

資料 2-2 スポーツの普及に向けた効果的な情報発信について

資料 3 令和 7 年度の新たな取組について

参考 1 東京都が考えるスポーツの範囲

参考 2 【厚労省】健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023（概要）

参考 3 Physical Activity Paradox（フィジカルアクティビティパラドクス）

チラシ わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく

チラシ 新宿ゆにスポ！（下半期）（生涯学習スポーツ課）

チラシ レクスポフェスタ！（案）（生涯学習スポーツ課）

チラシ 車いすバスケットボール教室（生涯学習スポーツ課）

チラシ サッカー教室（生涯学習スポーツ課）

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

(3) 区民のスポーツ実施率の向上を図るための取組

・生涯学習スポーツ課 資料説明 資料2・2-2・3

<議題>

- ・スポーツの範囲について
- ・スポーツをする気にさせる、始める気にさせる働きかけ
- ・区からの情報を区民に効果的に発信する方法について

【岡委員】～検討にあたっての視点について～

非常に難しい議題であると思いますが、私が思っていることはやはり先ほど少し説明ございましたが、「どのようにスポーツを通じて、ウェルビーイングの充実を目指すのか」というのは、おそらくこの会議のすごく重要なことだと思っています。ですから、結果として無意識にやっていたけど、それで健康になったみたいなことを考えるのではなく、やはり自分自身のウェルビーイングの充実に向けて、意識して、自分の時間を大切に使いながら、結果として、自分のウェルビーイングの充実につなげていくという政策をどのように作り込んでいきたいのかということ、考えていくべきだと私自身は思っています。健康づくりを目指す健康部や、介護・福祉の観点など、いろいろな部署で体を動かすことが大事だという認識があると思います。要するに切れ目のないサービスではありますが、「体を自分の意思を持って動かす。」そういう人をどう増やしていくのかということ、考えられる部署は、多分この会議ぐらいしかないのではないかと考えているところです。これはあくまでも私見ですが、それぞれ委員の方々のお考えがあると思いますので、どんどんお話いただいて、良い落とし所に到達できればいいのではないかと考えています。

<議題について意見交換>

【藤原委員】

質問ですが、まず、資料 p.4 スポーツの範囲の整理結果(案)について、基本的に、このまとめについては障害者も含まれると考えていいのでしょうか。その場合、①目的意識、③時間・回数、④継続性は、どんなに障害が重くても、ある程度一緒に共有はできるのですが、②身体の負荷、に関しては、障害者スポーツと言っても、パラリンピックに代表されるようなものばかりではないので、障害者スポーツの定義としては、体が動く部分、体が反応するだけでもスポーツというふうに捉えていると考えています。なので、例えば言い方がとても失礼になりますが、植物状態のような方でも、意識がないわけでは全くなく、何かに反応して心拍が上がったりとかも

するので、そういった方にとっては、例えば瞬き一つでもスポーツと捉えてもいいと我々は考えていたりもするので、そういったところのご理解をいただきたいです。またこれとは別に障害者でこういった規定を作るのであれば、また別ですが、できれば同じハードルにいたいなという希望はあります。

また情報発信のところで、p.6、対象のカテゴリが分けてあるのがすごく良いと思ったのですが、自分から探しに行かないと、なかなか見ない形のものが結構多かったりもするので、例えば病院の施設、新宿区には結構大きな病院が多いので、そういった病院に置いておくことで、リハビリの先生や、整形外科の先生がこういうのがあるよ、というのを勧めていただいたりすると、患者さんとか、その家族とか、知らなかった方も行きやすくなるんじゃないかなと思うので、医療機関等も視野に入れるといいのではないかと思います。

【生涯学習スポーツ課長】

一点目の、障害者の方の身体の負荷についてのご質問ですが、まさに身体の負荷については、個人差があると捉えています。ですので、ご本人にとってそれが負荷であれば、瞬きがスポーツであると考えられると思います。どれだけそれを頑張ろうとするかということが大事だと考えていますので、走れる方はもちろん走りますし、指先しか動かない方であれば、その指先を動かすことがスポーツと捉える。そして、一生懸命瞬きをする時間を一日何分か設けようとか、それをなるべく続けていきたいと思いますという捉え方をしていきたいなと考えているところです。

【藤原委員】

ありがとうございます。また、随意的に動かせる部分が全くない方の場合、例えば、ボールなど弾むようなものを、手で触れたりすると、物理的な違いみたいなものを感じることもあります。また例えば、クリアソン新宿さんの試合を観に行くと、サッカーは全然理解できないし、スポーツは全くわからないけど、その応援の雰囲気、実際にうちの娘も行くと、周りの歓声とかで心拍数が上がって来たりします。顔が高揚したり、顔色がすごく良くなったり、もしくはびっくりしちゃって、顔が真っ青になっちゃう子もいたりします。要するに、そういう感覚的なところも、我々はスポーツに参加をしていると捉えているので、もちろん健常の方にそれが当てはまるかどうかは別としても、広義という意味ではそういったところも捉えていただき、例えば注意書きで、身体でこういうことがあれば、こういうのもスポーツと捉えてますよというアナウンスがあると、我々としても参加がしやすいかなと思います。

【生涯学習スポーツ課長】

ご意見ありがとうございました。この目的意識というのも、無意識より、意識的に行った方がいいということで当てはめたところでしたが、確かに意識がない中での効果というのものも、感覚的なところで持っている方もいらっしゃるということが、よく分かりましたので、今後お伝えしていく際にはそのあたりも工夫しながら、広く捉えるという視点で発信していきたいと考えています。

【健康政策課長】

参考までに情報提供です。日本語のカタカナのスポーツと、アルファベットの Sport(スポルト)の違いを調べたことがあります。アルファベットの Sport(スポルト)は、仕事や義務によらない身体活動のすべてのことを含むらしく、日本語で言うと「遊戯」に近いものです。それが日本に導入されるときに、日本では、競技スポーツ

という形で、カタカナのスポーツとなった経緯があるようです。外国の方々が、eスポーツなどをすんなりスポーツと受け入れられたり、オリンピックも当初には合唱や芸術も含まれていた話も聞いたことがあるので、そういう経緯から、外国ではスポーツが広く捉えられていると思っています。先ほどの、障害者の方であれば、義務や仕事でやってるわけではないということであれば、身体活動としてそんなに負荷がなくても、スポーツとして捉えていいのではないかという考えも、一つの見解としてあるのかなと思いました。

【村上委員】

資料は非常によくまとまっていると思うので、これを参考にしたいと思いますが、高齢者クラブでは、リーダーがいなくてこないという面があります。資料の狭く捉えたスポーツは、高齢者クラブのスポーツ部長が組み立てて、目的を与えてあげているので、各支部の会長さんがスポーツが好きだと申し込んでくれますが、会長さんが全然スポーツに興味がないと申し込まれない状況です。やはり、いかにリーダーを教育していくかが課題です。私どもはみんな会員なので、情報発信は100%行くのですが、それについてこない人がやっぱりいるのでその辺をどうしたらいいのかなと考えています。

高齢者クラブは、輪投げが1回、グランドゴルフが2回の年間で3回の催しを行っていますが、毎回250人以上に参加してもらっているので、意欲のある人はたくさんいる。ただ、お年寄りが非常に多いので、家を一步出させるのがとても難しい。家を一步出たところから運動なので、そこからバスや電車に乗ったり、頭を使うので。第一地域センターから第二地域センターに行くのも難しいお年寄りが多いので、こういった大きな催しがあると、リーダーが電車に乗ってでも引っ張ってきてくれる形になるので、私どもはリーダーをどう育成した方がいいのかを課題としています。

【池田委員】

スポーツの範囲ということで、私は「スポーツ」と「運動」に分けたらどうかと考えました。「スポーツ」は、例えばサッカー、野球、オリンピック競技などは分かりやすいのですが、それ以外に、収益性を生みそうな競技もすべてスポーツと仮定すると、案外、eスポーツや囲碁、将棋なども収益性があると言えます。目的意識としては、勝利、記録の更新、観客を魅了する、そういうものをスポーツと仮定しました。あとは、専門性、継続的な厳格な訓練が必要で、収益を生むということによって、厳格なルールと社会的な信頼が生まれることで、競技のスポーツといえるのではないかと。そして、それ以外の体を動かす身体活動を、スポーツという言い方よりは、「運動」と捉えると、目的としては健康のためだったり、楽しさ、自己研鑽、他者との交流などとなり、実施時間や継続性に関しても、それは個人のライフスタイルに合わせて、生涯を通じて柔軟にやれるような、誰かと競うというよりも、自らの体を整えることを目的としたものを「運動」とすることによって、今後のアプローチの仕方や、資源投資を考えていく前提としていいのかなと考えました。

【平田委員】

資料 p.4 どこまでをスポーツとするかというところで、私はeスポーツもスポーツだと捉えています。というのは、①目的意識と、④継続性があればスポーツとみなして良いのではないかと考えます。一つの目標に向かって、みんなが一緒に練習したり、行動したり、その中に不登校の子もいたりするんですけども、そういったことで、行動変化が起きているということが、大事なのではないかと考えています。

効果的な情報発信については、中学校で言うと、今まさに新宿区も国を挙げてだと思っておりますが、部活動の

地域移行の計画を立てて進めていらっしゃると思うのですが、将来的に、中学生が地域で部活動をやるとなった時には、大人、子どもの垣根を取っ払って、いろんなものに大人も子どもも一緒になって活動していくことで、SNSとか、そういった方法も大事なんですけれども、アナログ的な発信の仕方もあるかなと。それがまた中学校を卒業してからも、新宿区のそういう活動に参加する機会が増えたりするといいのではないかなと思いました。

【新谷委員】

スポーツの範囲ということで、あまりハードルを上げすぎないほうが、私としてはいいのかなと感じています。私ぐらいの歳になると、健康診断でいつも異常が出て、いつもその度に運動するように言われるので、その時は健康のためという動機付けで運動しようかなと思うのですが、やっても3日坊主になってしまいます。なので、継続するということが非常に難しいと思います。今思い浮かんだのが、新宿区の施策で、「ふれあいクーポン」というものがありまして、これは60歳以上の高齢者の方が対象で、銭湯に月4回入れるというクーポン券だったのですが、これが令和7年4月から、そのうちの1回は、スポーツ施設を利用できるという形に変わった結果、無料だからという動機づけが要因かは分からないのですが、新宿スポーツセンターでは、夏場で約200人ぐらい、今の時期で260人ぐらいの方が定期的に通われるという状況なので、スポーツするという動機付けになったのではないかと感じています。

【西村委員】

健康維持、美容、ダイエットとか、そういうものを運動とするのかなど、今までぼんやりとスポーツと運動をどこで区別すべきかと考えていたのですが、先ほどの池田委員のご意見を聞いてはっきりしたと言うか、分からせてくれた感じがしましたので、池田委員のおっしゃった意見に同意できました。あと、個人的にはeスポーツを否定するわけではないですが、スポーツとするのは違和感があります。

【井元委員】

先ほど、アルファベットのスポーツとカタカナのスポーツの違いを説明していただきましたが、一般的には、というか、私が考えているスポーツは、資料2-2の狭く捉えたスポーツであり、やはりルールに基づいた競技性のあるものがスポーツだと考えておられて、それが一般的な日本人や区民の方たちが考えておられることではないかなと思います。ですから、今広く捉えたスポーツとして、一般的な運動も含めるのであるならば、新宿区スポーツ環境整備方針も、スポーツ・運動環境整備方針という言葉にしたほうがいいのではないかと思います。やはり「スポーツ」だけの言葉を使っていると、ルールに基づいた競技性のあるものと一般的に勘違いされと思います。広く全体的なものを入れるのであれば、スポーツ運動と両方を明記すべきではないかなと私は考えております。

【神田委員】

私の感覚は、ちょうど僕は60歳を超えてから、ねんりんピックの全国大会にサッカーで二度ほど出場しています。開会式で隣になった方がスポーツ麻雀の出場選手でした。その時にお話をさせていただいて、腕を使って、指で麻雀牌を掴み、さらに頭を使うから、それは十分スポーツなんですと。そういうのもあるのだなと、その時認識をしました。

いま、レクリエーション協会とスポーツ推進委員協議会とスポーツ協会が合同で、多くの方を巻き込んで、少しでもスポーツに関心をもってもらうイベントを予定しておりますが、今日は障害者の方や高齢者の方のお話を聞いて、今後どういうコラボレーションができるのかなど、ずっと頭を使っておりました。発信についてのお話が課長の方がありましたけど、発信の前にグランドデザインがないものは、発信のしようがないので、どういう形で組めるのかなど。小学生、中学生に関しては、長い将来で見るならば、大人になってもずっと地域と新宿区と、絡めるような状況になるといいと思う。サッカー協会だけでは 4,000 人ぐらいの選手がいて、未就学児から最高齢が 90 歳くらいまでですが、それはあくまでもスポーツができる人。今の高齢者の方や障害者の方で巻き込んでいって、子どもさんたちが大人になってもそこに参加できるような形を作るということが一番大事なことだと思います。この会議はすごく広がってきているなというふうに私は感じています。また、それなりに自分の中では噛み砕きながら、いろいろ相談しながら提案をさせていただきたいなと思います。

【奈良委員】

まずスポーツの範囲について、私どもが考えるには、日常生活の中で計画性を持って、何らか自分に負荷がかかる運動をするのがスポーツではないかなと思っています。当然個人差もありますから、一人の人が 1 時間歩くのがその人にとっては負荷かもしれないし、10 分歩くだけでもすごく負荷がかかるかもしれませんけども、やはり何らかの計画を持った上で動いたということが、一つのスポーツになるのではないかなと思います。それで、体を動かして、楽しんで、健康になった上で、いろんな人と交流がつながっていくということがスポーツを広げていくための一つの糧になるのではないかなと思います。

それと、私も人間なので、スポーツをしても、何かしないと励みにならない。目に見えて何かがあると、やったと思うのですが、新宿区で歩数のメーターを登録して、歩いた分のポイント制で、一年にイベントが何回かあるんですけど、その間に何千歩歩いたら抽選で QUO カードをくれるとか。私も 1 回 QUO カードをもらったことがあるんですけど、やはりそういう感じで、何かしら頑張ったら賞をもらうわけではないけど、何かをもらえたりすると、この次続けようとか、頑張れるかなっていうのを感じているので、予算もいろいろあると思いますけど、買い物にただ行くだけじゃなくて、遠くまで買い物に行ったら何かしらポイントがついたみたいなのが考えられればいいのかなと思います。

最後に質問ですが、効果的な情報発信の中で、「子ども」は小学生、中学生が対象でしょうか。また、子どもの親が対象なのか、子どもが対象なのか教えてください。

【生涯学習スポーツ課長】

小中学生の子どもが対象です。親御さんは、例えば子育て世代の方を想定しています。

【奈良委員】

青少年育成委員会に関わっているのですが、小学校とか中学校にスポーツイベントでポッチャ大会やサッカー大会のチラシを、学校分印刷してお持ちすると、いま「すぐーる」という学校の配信システムがあるのでチラシは配れませんということで、学校の先生、副校長先生が「すぐーる」に載せてくれて、子どもたちではなくご家庭、親御さんに発信してくれています。今、学校にチラシを持っていっても、各地域でやっているいろんな行事は配っていただけてないので、実際に区のチラシは学校では配っていただいているのでしょうか。

【教育調整課長】

学校で子どもを介してチラシを配ると、クラスの中で一枚一枚渡すのだけで、小1のお子さんなどだと時期によっては、15分ほどかかってしまうケースもあります。今の時点では、お子さん関連の区の主催事業と共催事業については、学校でお子さんを介しての配布をしています。それ以外のイベントについては、イベントの内容にもよりますけれども、ご遠慮いただいているケースはあると聞いています。学校ごとにその取り扱いを決めてるところもございますし、奈良委員からお話にあった「すぐーる」という、電子媒体での周知方法もだいぶ整備させていただいておりますので、教員の働き方改革ということも含めて、大変恐縮ではございますが、ご理解賜ればと思います。

【金子委員】

スポーツをする気にさせる方法、発信の仕方について工夫されている団体等がありましたら、普段やっていることでも、ぜひ教えていただければと思います。

【奈良委員】

財団のレガス祭りなどで、スポーツ推進委員で体力測定を実施していますが、その際に測定した方に、結果を紙でお渡ししています。それを次の年のレガス祭りに持ってきてくれた方がいて、一年間のうちにウォーキングを何回頑張ったとか、こんなに歩いてたとか、運動やったよということで、また計測をしに来たということでした。やはり、本当に小さなことですが、何かしら目に見えて残るもので継続できれば、続けられるのではないかなって思っています。

【金子委員】

その気にさせる発信方法としては、皆様に提供するものが小さな範囲であれば人間対人間が一番強いです。いわゆる口コミです。レクリエーション協会で行っているんですけども、小さな講演会などで理解してもらいたい時は、どちらかといえば口コミで人を集めています。規模が広い範囲になると、手に負えないので広報紙とか、Oh!レガスとかに掲載をお願いしているような形です。

【藤原委員】

私たちの法人だと、SNSでインスタとかやっていますが、ショート動画とかだと結構、開いて見る方が多いみたいで、30秒以内ぐらいの、特に説明もなく、動いているものは目に留まるようです。チラシとかだと、どうしてもお知らせ感がすごく強くなると思うのですが、例えば、実際にやった人の失敗しちゃったこととか、面白おかしく、もちろんSNSに掲載して問題ない範囲を踏まえたうえで、そういう動画を出しておく、「新宿面白いのやってそうだね」みたいな、そういった発信の仕方もあるかなと思います。年齢層が限られるかもしれないですが、今まで興味がなかった方の目を引く。よく地方の自治体だと、変わった踊りが、突然有名になったりということもなきにしもあらずなので、例えばそういう動画のコンテストとか、動機付け的にスポーツをやりませんかというよりは、ちょっと動いてみませんかみたいなところから、面白そうだなと思わせて、スポーツ施設に行かせちゃうような方法もありかなと思いました。

【神田委員】

新宿区スポーツ協会では、各競技団体が 39 団体ありますが、今年ホームページを作りまして、何かしらスポーツがやりたいと興味を持ったときに、新宿区スポーツ協会のホームページに行くといろんな連盟の連絡先が掲載され、加入できるという作りになりました。また、それとは別で、そこまで本格的にやらなくても遊びでもいいという方に向けては、今日の資料「わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく」で配布していますが、普段、スポーツに接していない人たちも、いろんなスポーツに興味を持ってもらうことを目的に、明日イベントを開催します。私自身は、サッカーや野球、水泳などもやっていましたが、やはり一つのスポーツに限らず、いろんなスポーツに触れるということが本当に良いと思っています。

もう一つ。先ほど言い忘れたのですが、日曜日に新宿シティハーフマラソンがあり、ボランティアでいうと、新宿だと一番大きい規模のイベントですが、そういうボランティアに参加するという案内も一つだと思います。私も国立で、結局朝から万歩計で測ったところ、2 万歩以上は歩いていましたので、そういったことから体を動かすことにもつながると思います。

【池田委員】

先ほど、学校の「すぐーる」の話がありましたが、私は花園小学校で、児童数も少ない学校なので、副校長先生の範囲で、「すぐーる」は親の携帯に直接届くので、子どもたちの目に触れたい内容のものはなるべく紙で渡せるようにしていることもあるようです。ただ結局、今日もイベントのチラシが何枚か配られています。これを情報を求めている人のもとに届くことが、紙媒体では難しいです。思ったのは、今まではプッシュ型といって、一方通行で紙で渡す形となっていますが、そうではなく、生成 AI とかを使得って、例えば 3 月 1 日は暇だなど思った時に、3 月 1 日に参加できるイベントを生成 AI で調べると、パッと出てくるような感じにすると、じゃあ行こうかなって思ったりする。プッシュ型から対話型を充実させるといいかなと思います。行ける人が行きたい情報を得て、これなら行けるから行こうっていう仕組みを充実させると、より参加者が増えるのかなと思いました。

【金子委員】

今、皆さんの立場で発信する方法をいろいろご意見いただいています。もし区で発信したいことを私たちに伝えるためには、区はこうしたほうが良いと感じることがありましたら教えてください。

【村上委員】

私は自治会をやっていますが、地域交流館は、非常に情報の提供がしっかりしていて、何か募集するとあっという間に集まるんです。また、いつも誰かが通ってる場所に情報が載っていると目につくので、町会の掲示板も利用するといいいんじゃないかと思っています。結構暇な人はじっとこうやって見て確認してます。あと、区報も非常にみんなよく見ているので、例えばゴルフのジュニア教室なんてあると、もうあっという間に 60 名 70 名すぐ集まるっていうような環境があるので、そういうのを利用した方が良いのかなっていうふうには思います。交流館は情報発信として利用するのはいいと思います。

【金子委員】

地域交流館は言葉を添えながら誘ってくれるから、いいかもしれないですね。

町会の掲示板に関しては、私も二つの掲示板担当を持っていて、毎月 2 回貼るのですが、いまは貼り切れないぐらいチラシが貼ってあります。

【村上委員】

少ないところもありますが、貼るところがないというところもありますね。ただ、例えばお餅つきのチラシを掲示板に貼っておくと、人がボンとくるので、やはり効果は高いのではないかと思います。

【金子委員】

私はそれ以外に、「結ネット」をたまに見るのですが、そこに「わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく」の情報が載っていました。「結ネット」もせっかく新宿で作っているのも、もっと宣伝してもらいたいかもしれないですね。

【井元委員】

資料 2-2 の最後の発信方法について、①～⑨はすべて良いことだと思います。それにプラスとして、町会で回している回覧板は、隣のお宅に回さなくてはいけないので、見てから渡しますから、情報伝達の手段としては非常に役立っています。なので、なぜもっと回覧板を利用するようにしないのかなど。スポーツだけではなくて、いろんな場面で回覧板っていうのは有効に使えると思うんですね。今日、町会連合会の代表の方に、町会連合会の世帯数や加入している割合を聞いたかったのですが、賃貸のマンションなどではない限りは、伝達の手段としては有効だと思っています。

【金子委員】

今は、回覧板を回している町会が減っています。続けているところは続けていますが、回すのに詰まるころがあったりするので、それがストレスになってやめてほしいという声などがあつたそうです。回覧板は一軒一軒に回るので、効果はあるのはそうだと思いますが、私の地域ではやめたところが多く、その代わりに、掲示板は雨にも濡れてもならないようにちゃんとガラスを張って、なにかあつたらそこへ見に行くっていうのがだんだん習慣化されてきていると思います。

【金子委員】

その他に、区の情報発信の仕方について、なにかご意見や提案はありますか。

新宿区のスポーツのことは、生涯学習スポーツ課が全部まとめています。だから、ここから発信していかなきゃいけないと思うんですね。その意識を持つためには、いろんな意見交換をして、お互いに気づいてやっていけばいいなと思っていますので、意見をおっしゃるのは何の遠慮もありませんので、気がついたらおっしゃってください。

（４）各団体や委員の皆様のスポーツに関する現状や今後の取組みについて

【神田委員】

明日、「わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく」を実施します。9月に第1回目を開催し、第2回目となります。この環境会議の、いろいろ出たアドバイスも含めた中で、楽しんでもらえる演出ができるように頑張りたいと思います。それと、先ほど課長からお話ありましたが、3月20日、夜6時キックオフで、クリアソン新宿のプレの開幕戦が新国立競技場での開催が決まりました。皆様、こちらもよろしくお願ひしたいと思います。

【奈良委員】

新宿区スポーツ推進協議会では、昨年まで小学生対象のポッチャ大会を 3 回行いました。全3回とも 8 月の夏休み中に行っていたのですが、やはり 8 月だとあまりにも準備や周知の期間が短すぎて大変だということで、来年度の第4回大会は次の年の 3 月春休みの頃開催をしようと思っています。小学生対象なのでいろんなところに声をかけてるのですが、準備期間が短いのもそうですが、さっき言っていた情報発信がなかなか皆さんに行き渡らず、すごく良い大会なのですが、人数の集まりが少ないので、来年は 3 月に行って、もう少し皆さんに参加していただけるようになればいいかなと思っています。

【藤原委員】

障団連としての活動報告は特にないんですけども、クリアソン新宿のプレシーズンから来年度シーズンに向けて、新宿区障害者団体連絡協議会がパートナーシップ契約を結んだので、また障団連をあげて応援をしていきたいと思っています。初戦楽しみにしています。

【池田委員】

小 P 連としては、ソフトボール大会、バレーボール大会、11 月 18 日には卓球大会を開催しました。保護者が活動するという形で、この間の 18 日もスポーツセンターでやらせていただきましたが、午前、午後含めて大盛況で、多くの人が集まって、ものすごく熱血な大会が行われました。子どもはちゃんと学校でスポーツをやっているんですけど、親の方がなかなかスポーツができていなかったりするので、このような形で楽しんで良いコミュニケーションを取れています。またどうぞよろしく願いいたします。

【平田委員】

中 P 協では、今年のテーマとしては、やはり部活の地域移行について議題に上がりました。教育委員会の方々も、どういった計画でなされるのか、なかなか難しいところがあるようですが、せつかくのスポーツを皆さんと地域と一緒に盛り上げていければなど。それで将来につながればと思っています。先生方の働き方改革もあるんですけども、私たちも一緒にそれをいいように動かしていければと思っています。

【金子委員】

チラシでお配りしている「レクスポフェスタ！」ですが、新宿区レクリエーション協会として、運営協力をさせていただいています。どなたでも参加していただけるイベントはいっぱいあるんですが、今回はゲスト出演として、高田馬場福祉作業所のダンスサークルの皆さんに、この場で発表をしてもらえないか呼びかけをしました。サークルの皆さんには、発表に来ていただき、そしてイベントのいろんな種目に参加していただこうと思っています。こうしていくと、また新しい輪が広がっていくかなと思い、いつものイベントではなくて、いろんな場面を創出する、いろんなところへ進出していきたいと思います。

【新宿未来創造財団等担当課長】

先ほどの神田委員の方からご紹介ありましたが、1 月 25 日に、新宿シティハーフマラソンを無事に開催することができました。本日お集まりの委員の皆様にも、ボランティアでご参加いただいた方ですとか、実際にお住

まいにならされている地域での交通規制等で多大なるご迷惑をおかけしたかと思えます。現在、出走者数等については、取りまとめ中ではございますが、AEDを伴うような事故等なく開催することができました。本当にご協力いただきましてありがとうございます。ご意見等様々いただいておりますが、来年度、またより良い大会となるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【岡教授】～本日の会議における総括等～

今日の議題ですが、スポーツへの認識について、みんなで共通認識を持つというのは、区の立場からすれば、切れ目のないサービスもそうなんですけども、誰の何の目的でこの政策をやっていくのかということを考えていく上では、このような整理はすごく私は大事だと思っています。これが正解でもなんでもない。今日の会議で、新宿区のスポーツはこれなんですと決めるわけではないと思うのですけれども、皆さん方がそれぞれの立場でこういう意見が交わせたというのは、すごく良かったんじゃないかなと思っています。私自身もいろいろ悩むこともありますし、健康とか介護とか福祉とか、いろんなことで私も関わっていますので、どの立場から、スポーツはこうだろう、運動とはこうだろうとか、体を動かすこと全般は身体活動だろうとか、厚生労働省ではこう考えられているとかっていうのはあります。でも結果として、私が大事だと思うのは、新宿区民のスポーツ好き、体を動かすことが好きな人をどう増やしていけるかというのが、このスポーツ環境会議の大事なポイントなのだと思います。もっと新宿区民のスポーツ好きを増やす。スポーツはするものでもありますが、見るものでもあるし、支えるものでもあるし、スポーツへの参加という意味ではどれも大事なんだと思うんですね。なので、そのあたりはまた、皆さんとこれから先もご議論ができればいいのではないかなと考えております。

情報の普及方法については、やはり掲示板等も見ると人は見てるし、そういう人たちはそういうものに感度がいいし、そういう人を集めたい時にはそれが有効だと思います。または、掲示板などの情報はあまり見ないけれども、何かしらのタイミングでパッと情報に触れると、やってみようかなという気になるというように、リーチできる人が違うと思うんですね。そのあたりも、これからの技術も含めてスポーツの普及に上手に使っていったらいいのかなというふうに思っています。

また、藤原委員がおっしゃっていました、こういう定義をするときに、誰かや、何かは抜け落ちることがないように、私も定義は一つがいいと思っています。新宿区民全員が、障害を持つと、若かろうと、年齢を経ていようと、みんなが同じ定義の中で捉えられる内容が良いと考えていますので、改めて今日ディスカッションして考えることがあったと思いますので、また次回以降の会議の際にも、貴重な意見をいただけるといいんじゃないかなと思っています。

もう一つ。私自身は、スポーツって、もちろん一人で頑張ることもあるんだけど、人と一緒にやる機会を提供できる、すごくいいコンテンツだと考えています。最近の研究では人と何かをやるのが、例えば幸せホルモンを出すことにすごく有効であるという研究もたくさんあって、それは人と犬でも、目と目が合うとオキシトシンが出るという。なので、やはりスポーツというのは、新宿区民が交流する場を作るという、すごく大事なコンテンツだと思いますので、そういう観点からも、ぜひとも皆さんにまた貴重な意見をいただけるといいなと思っています。また、今日資料を出していただいた「フィジカル アクティビティ パラドックス」という研究がありますが、これは、余暇に自分で時間を作って体を動かすことと、仕事などによって結果的に体を動かしていることとの健康効果は違うのだ、という研究が最近言われていて、やはり余暇で体を動かすこと、まさに今日の議論をしたスポーツみたいなことに携わることが、もちろん健康にとっても、死亡のリスクが全然違うというところまで研究がなされており、今、厚労省の方でこの研究がまとめられていますので、その情報が整理されたら、皆さんに

も共有したいなと思っています。だからこそ、今日のスポーツのディスカッションというのは大事で、やはり自分で時間を使って、みんなで一緒にやれるような、そういうものをもっと増やして、新宿区民でスポーツ好きを増やしていこうということだと思っています。

あと内容とは関係ないのですが、私自身、バスケットボールを昔からやっており、実は新宿区出身に岡田雄介選手というスポーツ選手がいます。正確な情報だけ言いますが、早稲田小学校のご出身、牛込第二中学校をご卒業されています。高校は、茨城県の土浦日大高等学校、大学は青山学院大学に進学しています。彼は私にとってはヒーローでして、プロ野球選手会があるように、バスケットボール選手会というのを選手の立場で作った選手です。日本代表にもなっていたり、もっとすごいと思うのは、彼は公認会計士なんですね。これは青学で国際政治経済学部で興味を持って、バスケットボール選手を続けながら資格を取得されました。ちょうど 2025 年シーズンで引退なのですが、新宿区から、こういう選手がたくさん出るようになるというかなと思ったのと、こういう方に講演とかしてもらおうと、子どもたちがやる気になったりするのではないかなと。ちょうどこの間、引退の話が出ており、なかなか言う機会がなかったので、今日勝手に言わせていただきました。新宿区出身のスポーツ選手については、新宿区環境整備方針にも載っていますが、岡田選手もそういう選手の一人として、注目しといていただけたらいいかなと思っています。

(5) その他

【村上委員】

新宿区にお願いしたいのですが、私、万歩計を持って、毎月 40 万歩くらい歩いていますが、神田上水には距離がちゃんと表示されています。今日歩いた距離がみえることで、自分の意識も変わるので、例えば公園の周りに表示板を作るとか、または遊歩道のところに表示板を作って、1 キロ単位での表示とかがあると、歩いている人が自分が歩いた距離を分かることができます。やはり目で見ると見ないのでは全然違うと思うので、是非新宿区のいろんなところ良い場所がいっぱいあるのでお願いしたいと思っています。神田上水は上の方と下の方から距離がちゃんとスタートラインがあって、ここまで 2.6 キロ、ここまで 2.8 キロと、全部道路の真ん中に標準版が出て。子どもたちにも面白いだろうし、是非そういうことを考えていただけたらいいなと思っています。

【池田委員】

来年度は小P連から別の代表の方が参加すると思うので、私は最後になると思いますので、願わくば、クリアソン新宿のスタジアムができたらいいなと思っています。こういう話が将来、進めばいいなと思っています。ありがとうございました。

【生涯学習スポーツ課長】

岡先生からもありましたが、本日は非常に活発なご意見や、参考になるご意見、また具体策もいただきましたので、我々の中でも整理をさせていただいて、次年度のスポーツ環境会議の中でお見せできたらなと思っています。今日は、抽象的な議題だったので、なかなか捉えどころがなくて難しかった部分もあると思いますが、今後、エビデンスも意識しながら施策を進めていきたいと考えておりますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(6) 閉会

事務局から次年度の委員の推薦について説明

終了